

(学年) 2年次、(教科・科目) S S H情報

一斉学習

(単元) 第5章 問題解決

(本時のねらい)

表計算ソフトを利用して、日時等の数的処理を理解する。

論理的な思考力を身につけ、問題解決に活用する。

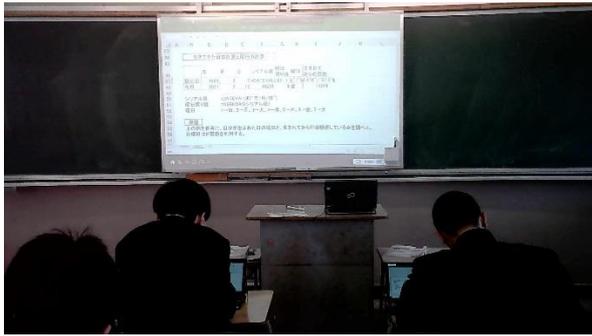
(ICT活用方法)

表計算ソフトを手元の一人一台端末で操作して実習を行う。その際、教員の端末の画面を電子黒板に投影することで操作を明確にし、効率的に実習させる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を立ち上げ、本時の目標を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を伝える。 	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトにおけるデータ形式についての説明を聞く。 シリアル値を活用して自分が生まれてから何日経過したかを計算する。 生まれた日の曜日を表計算ソフトを活用して表示させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトにおいて、文字の認識が文字列のときと数値のときで処理の仕方が変わることを伝える。 シリアル値の表示の仕方を電子黒板で見せる。 曜日を数値化したデータを表示させ、IF関数を用いて曜日に変換させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字列関数の例を電子黒板に投影する。 生徒は手元の一人一台端末で例題を作成する。 シリアル値を表示する方法を電子黒板に投影し、生徒に見せる。 生徒にプリントの課題を作成させ、教育クラウドプラットフォームに提出させる。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめを行い、振り返りをさせる。 	

(授業の様子)



(写真1) 電子黒板への投影



(写真2) 一人一台端末端末活用の様子

文字列関数基本編

※文字列の足し算
 =A1&A2 や ="三好"&"和真" や =A1&"様"
 (注:A1,A2のセルには文字が入っている)

(1) =LEN(セル)
 例 =LEN(A1) A1セルの文字の長さを得る

(2) =RIGHT(セル,文字数)
 例 =RIGHT(A1,3) A1セルの文字の右から3文字取る

(3) =LEFT(セル,文字数)
 例 =LEFT(A1,3) A1セルの文字の左から3文字取る

(4) =MID(セル,何文字目,文字数)
 例 =MID(A1,2,3) A1セルの文字の左から2番目から3文字取る。

(5) =ASC(セル)
 例 =ASC(A1) A1セルの文字を半角文字にする。

(6) =TRIM(セル)
 例 =TRIM(A1) A1セルの文字から不要な連続している空白を取り除く。
 (文字間の空白は1つだけ残ります)

生きてきた日数計算と曜日の計算

	年	月	日	シリアル値	曜日 戻り値	曜日	生まれて からの日数
誕生日	1989	6	7	32666	4	水	1
今日	2021	2	12	44239	6	金	11574

シリアル値 =DATEVALUE("年/月/日")
 曜日戻り値 =WEEKDAY(シリアル値)
 曜日 1→日、2→月、3→火、4→水、5→木、6→金、7→土

課題
 上の例を参考に、自分が生まれた日の曜日と、生まれてから何日経過しているかを調べよ。
 ※曜日はIF関数を利用する。

ワークシート

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

表計算ソフトの操作や関数の実習を行った後の授業であったが、曜日を表示させる際のIF関数で苦戦する生徒が多くいた。文字列関数については、生徒は理解しづらい内容であるが、実際に操作させることで理解できる生徒を増やしていくことができると感じた。